あかれんが

複十字病院だより

〒204-8522 清瀬市松山3-1-24
TEL：042-491-4111　http://www.fukujuji.org

【発行責任者】院　長 工　藤　翔　二

巻頭言　「継承」と「創業」

院長　工　藤　翔　二

新年号の巻頭言はいつも干支のことから書き始めることにしています。今年は午年です。私にとっては６回目の午年です。ところで『午年生まれは、強運な人』という妙な本があります。この妙な題名よりも、“午年生まれは人生を走りに走って前足を折ってばったり倒れる”という結論のほうが気になる６回目です。今年の年賀状には、昇る太陽が夜の海を照らした灯台から光を受け継ごうとしている、銚子の夜明けの写真を載せました。そんな風景を灯台の立場で見るか、昇る太陽の側で見るのか、それとも世の無常ととるか、明日への希望ととるか、見る人によってさまざまな感じ方ができる、夜明けの海をしばし見とれていました。

「継承的創業」、これは私の尊敬する安藤正幸先生（熊本大学名誉教授）の言葉です。何ごとも先人の築いたものをしっかり受け継いで、そこに新たなものを築いてゆくという格言です。かつて、安藤先生から厚生労働省の研究班を引き継いだときも、日本医科大学の主任教授を仁井谷久暢先生から引き継いだときも、複十字病院の院長職を尾形正方先生から引き継いだときも、そんな気持を大切にしてきました。複十字病院も、昭和22年（1947年）に結核研究所臨床部として発足してから、あと数年で70周年を迎えます。この間に、何回も「継承的創業」が繰り返されて、今日の複十字病院があります。

複十字病院はこの６年間、みんなでやり遂げてきた第Ⅰ期計画｛経営立て直し事業｝、第Ⅱ期計画「特色ある医療の新たな構築」を経て、今年は第Ⅲ期計画「特色ある医療の新たな構築（第２次）」へ向かおうとしています。私たちが進める医療の柱は、第Ⅱ期計画と同じ「結核・呼吸器」、「がん」、「生活習慣病と地域医療」の３つの柱です。「結核・呼吸器」、「がん」の専門医療の質をさらに高めながら、「生活習慣病」を軸にした地域が求める医療をつくってゆきましょう。

そして第４の柱は、「人材育成と自己啓発」です。これは、私たちの医療と経営を支える土台づくりでもあります。医師や看護師、コメディカルだけでなく、事務系職員を含めて全ての職員がプロフェッショナルでなければ、医療と経営を支えることはできません。

お知らせがあります。40年にわたって職員の働く環境を支えて下さった「みどり保育園」が、この春には「社会福祉法人どろんこ会」、「複十字病院（結核予防会）」、「清瀬市」の３者が協力して、地域にも開放された新たな保育園として「継承的創業」されます。

患者さんの負担はもちろん、病院の経営を直撃する消費増税と診療報酬改定の行方が気になる年の瀬です。でも患者さんと地域に守られた職員の結束があれば、これまでもそうだったように、難関の先に発展があることを信じています。

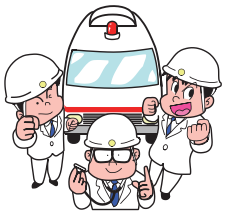
「継承」と「創業」、夜明けの銚子の海辺でみた風景がよぎります。

複十字病院が10月から「東京ルール」に参画致しました。

副院長　**池田　義毅**

東京ルールとは、平成21年８月東京都福祉保健局が決めた東京都における救急医療のルールです。東京では、救急搬送された年間60万件のうち、94%は速やかに運ばれています。しかし、全体の６%にあたる約４万件は、搬送先の病院がスムーズに決まらず、搬送困難になっています。その状況を改善するために作られたルールです。現在、約80の病院が東京ルールに参画しています。具体的なルールとは、救急車が患者さんを受け入れてから、20分間または５つの病院がお断りした場合、このルールの案件になり、東京ルールの当番病院に搬送されます。当然、病院の負担は増加しますが、東京都の要請と迅速な医療を提供するために参画しました。

皆様の御協力と御支援をお願い致します。



第51回 日本癌治療学会学術集会　優秀演題講演にあたり

がん診療支援センター長　**吉森　浩三**

第51回日本癌治療学会学術集会が国立京都国際会館において2013年10月24日～26日開催されました。一般演題（口演+示説）約2,000件より最優秀演題10件、優秀演題69件が選出され、肺癌部門３演題のうち一件に当院より応募演題が優秀演題として選出されました。

演題名は“非扁平上皮非小細胞肺癌に対するベバシズマブ、ドセタキセル、カルボプラチン併用化学療法の第二相試験”。当院を含む８施設（千葉大腫瘍内科学、群馬県立がんセンター、千葉県がんセンター、日本医大、日本医大千葉北総病院、坪井病院、横浜市立市民病院）による共同試験であります。

講演内容は背景として、進行非小細胞肺癌に対しドセタキセル／シスプラチン併用療法は最強レジメンのひとつである。カルボプラチンはシスプラチンより生存データにおいてやや劣るが投与の簡便性などで優れる面もある。シスプラチンをカルボプラチンで代用しても、ベバシズマブを追加することにより良好な効果を得られる可能性がある。このことを踏まえて“ベバシズマブ、ドセタキセル、カルボプラチン”併用療法の有効性と安全性を検討する試験を行いました。対象は20～74歳、PS 0-1、測定可能病変を有する切除不能・根治的胸部放射線照射不能未治療非扁平上皮・非小細胞肺がんとしました。方法は３週ごとに最大６コース繰り返し、進行していない患者にはベバシズマブによる維持療法を行いました。結果として、39例に投与しました。現在までに解析された３薬併用時の主な毒性はHb低下、好中球減少、血小板減少、発熱性好中球減少、高血圧でありました。

外部評価を終えた35例の解析では、奏効率74%、無増悪生存期間の中央値は6.4ヵ月でありました。結論は、本治療法は進行非扁平NSCLCの初回治療として安全性で有効である可能性が示唆されました。

以上、癌治療学会での発表を報告します。

第23回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会にて優秀演題賞を受賞して

リハビリテーション科　理学療法士　**多門　大介**

10月10日～11日に東京ドームホテルにて上記学会が開催され、当科からは吉田先生をはじめ４名が演題発表もあり参加しました。この学会へは私自身３年続けての参加でしたが、今年も日頃の臨床業務における疑問や考えから生じた課題を研究・発表のテーマとしました。

リハビリでは運動負荷試験にて評価を行うことが多く、今回は当科で実施している６分間歩行試験とシャトルウォーキングテストという２種類の試験について検討しました。これらは他施設でも広く実施されている試験ということもあり、若輩者の私には恐れ多い賞をいただく結果となりました。これを励みに、今後も臨床業務を日々検証する姿勢を大切にしていきたいと思います。最後に、学会参加にあたり様々なサポートをしてくださった当科の皆さんにこの場をお借りしてお礼申し上げます。

チーム医療紹介 1

NST委員会の紹介

診療主幹　**中浦　寛**

みなさん、“NST”知ってますか。

NSTは「栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施することをNutrition Support（栄養サポート）といい、この栄養サポートを医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師などの多職種で実践する集団（チーム）をNST（Nutrition Support Team：栄養サポートチーム）という」と定義されています。

人は口から食べ物をとってそれを栄養として生きています。しかしその当たり前のことがなんらかの原因で出来ない、あるいは食べる量が減ってきた時どうすれば良いのでしょうか。入院中にこういった事が起きた場合、その原因や栄養状態を把握し適切な栄養投与（経口栄養の支援、経腸栄養、静脈栄養）によって全身状態の改善を行います。

栄養管理は医療を行っていく上で感染管理と同様に非常に大切なことです。栄養管理は、従来食事任せであまり重要視されていませんでした。しかしながら、正しい栄養評価と栄養サポートは現在の医療には不可欠です。栄養管理はすべての治療方法の基盤であり栄養状態が不良であればいかなる治療も十分な効果が得られません。私達NSTは、正しい栄養評価とそれに伴う適切な栄養サポートができるように活動しています。

NSTの誕生は、1968年米国での中心静脈栄養の開発に医師だけでなく輸液を調合する薬剤師や輸液管理を実際に行う看護師、さらに栄養評価を行う管理栄養士などの栄養管理を専門とするスタッフが各施設で求められるようになり、これがNSTの始まりとされています。日本では中心静脈栄養法の普及は進んだが栄養管理の有用性が認識されず、1998年初めて１つの病院に設置され、2004年に病院機能評価の項目にNSTが取り上げられました。2006年の診療報酬に栄養管理実施加算が新設され、全国の医療施設がNSTを設立するきっかけとなりました。

当院のNST委員会のメンバーは医師２名、看護師は師長１名、リンク・ナース７名（各病棟の看護師）、管理栄養士１名、薬剤師１名、理学療法士１名の全13名で構成されています。

2008年に日本静脈経腸栄養学会のNST稼働施設として認定され、2013年の再認定も更新されました。

活動の内容は、症例検討会、NST回診、NSTに関する勉強会を定期的に行っています。

栄養評価は、入院時にSGA（主観的包括的アセスメント）を用いて栄養状態を評価します。状態により主治医と連絡をとったり、NST症例検討会で検討します。入院治療中であっても栄養状態が低下することも多く、リンク・ナースを中心に各病棟の栄養カンファレンスやNST症例検討会で相談しています。現疾患の治療に専念しがちな医療に対しに栄養状態の低下を知らせたり、下痢、嘔吐などでうまくすすまない経管栄養の対応などを相談しています。主治医から依頼があれば、NST回診を行い介入しています。

栄養評価・管理のサポート活動のほか、

- 経管栄養マニュアルの作成
- 簡易懸濁法の普及活動
- 嚥下体操などのケア・マニュアルを作成

などの活動も行っています。

最後に

病気になると、食欲が低下するだけでなく、治療のため食事が食べれない状態になることは少なくありません。決して無意味な食事制限ではありませんが、栄養状態が低下することは好ましくありません。多くのみなさんに栄養管理に対し興味をもっていただき、治療のためにも適切な栄養療法ができるよう主治医や看護師の皆さんと微力ながら協力していきたいと思います。

カンファレンス紹介 2

消化器センターカンファレンス

消化器センター長　**生形　之男**

今回は消化器センターで行われているカンファレンスを紹介したいと思います。

消化器センターでは現在、下記のようなカンファレンスが定期的に行われています。

①術前検討会：毎週金曜日17時より開催、１Cカンファレンスルーム。
②放射線治療カンファレンス：毎月第３水曜日８時より開催、１Cカンファレンスルーム。
③病理カンファレンス：隔月第４木曜日17時より開催、病院講堂。
④合同カンファレンス：年２回19時より開催、春は複十字病院、秋は新山手病院。

術前検討会では翌週の手術症例の術式やリスクについての討論と、各医師が担当している入院患者や外来患者の検査や治療方針についての検討や連絡事項の伝達、製薬会社の説明会が行われています。当日の手術の進行具合では開始時間が遅くなることもありますが、他科の先生で相談症例があれば気軽にご参加ください。

放射線治療カンファレンスでは、現在放射線治療中の患者さんや今後治療予定の患者さん、治療終了後の患者さんの今後の方針について、放射線科医師との間で討議が行われています。いままでは、治療の依頼だけしてあとは放射線治療医に任せっきりでしたが、お互いに議論することで放射線治療に対する理解が深まるようになりました。

病理カンファレンスは乳腺科、消化器科、病理検査科で合同で行われています。珍しい症例や興味ある症例の病理組織学的な検討が行われています。最近では病理検査は免疫組織学的な解析が不可欠になっています。レポートのコメントだけ見るのではなく、実際の標本（プレパラート）を見ることで疾患に対する理解が深まるようになりました。

合同カンファレンスは当院と新山手病院の消化器外科で症例を提示しあい活発な議論が行われています。パラメディカルの職員や近隣の先生方の参加もあり活発な議論が行われています。開始時間が少し遅いですが弁当も出ますのでお時間があればぜひ参加してみてください。当院の職員であれば職種に関係なく参加自由です。結核予防会の兄弟病院としてお互いに切磋琢磨できる場で、予防会の事業所発表会よりは気楽な雰囲気のカンファレンスです。消化器疾患以外でも発表できますので、他科の先生で発表の希望があればいつでも言ってください。

消化器センターでは以上のようなカンファレンスを定期的に開催し各医師の診断や治療レベル、知識の向上に努力しております。また、リクリエーションと近隣の先生方との交流の場として、年２回のゴルフコンペ（尾形杯）も開催し親睦を図っています。

今後も消化器センターをよろしくお願いいたします。

新山手病院との
合同カンファレンス

「秋桜の会」開催

2013年９月28日（土）午後２時より当院講堂にて、「秋桜の会・第17回おしゃべり会」が開催されました。

「秋桜の会」は６周年目を迎えました。みき音楽事務所さんによるソプラノ・マリンバ・ピアノアンサンブルの記念コンサートや、当院の医師や看護師との意見交換を行い、なごやかなひと時を過ごしました。

「ほろよいず」第９回目院内コンサート開催

2013年11月26日（火）午後７時より当院新外来におきまして、男性カルテット「ほろよいず」による秋のコンサートが開催されました。当日は秋の童謡唱歌やビートルズの歌、クリスマスソングなど計15曲が合唱され、あっという間の１時間でした。何度聞いても、その美声には感心させられます。

新山手病院　本館等施設整備竣工式

新山手病院　事務部長　**菊地　とおる**

平成23年８月より着工した本館等施設整備計画は、昨年９月に第１期工事の竣工を終え、本年10月26日に総裁秋篠宮妃紀子殿下のご臨席を仰ぎ、本館等施設整備竣工式を行いました。

秋篠宮妃紀子殿下が当会総裁に推載されてから、今回が初めての東村山ご訪問ということもあり、竣工式ご臨席前には記念樹を植樹され、その後は病院本館及び保生の森をご視察され、病院の患者さん、保生の森の利用者、グリューネスハイム新山手にお住まいの方にも声をかけられておりました。

竣工式では、東村山市　渡部　尚　市長、公益社団法人東村山市医師会　久保秀樹副会長からご祝辞をいただき、関係医療機関、近隣住民の代表者、工事関係者、及び結核予防会本部・事業所の役職員にご出席いただき、内部関係者を含め131名ご列席いただき盛大に執り行われました。竣工式後は、内覧会と披露懇談会を開催し皆様にお披露目をいたしました。

建物は、地上３階建て、建築面積3,575.94m^2、延床面積7,972.11m^{2}の規模で、外来（16ブース）、放射線診療センター、歯科口腔外科センター、検査科、人間ドック、リハビリテーションセンター、内視鏡室、血管造影・気管支鏡室、呼吸器病棟及び管理部門をリニューアルし、回復期リハビリテーション病棟（16床）を新たに設置いたしました。

特に、放射線診療センターでは、放射線治療を開始するためバリアンメディカルシステムズ社製「CLINAC　iX」を新たに導入し治療を開始するほか、リハビリテーションセンターの機能充実も図っています。

中央のもみじが総裁により
植樹された
枝垂れもみじ「手向山」

「走りながら考える」
―清瀬市認知症委員会と北多摩北部認知症連携協議会について―

認知症診療支援センター長　**飯塚　友道**

2013年６月１日、朝日新聞に「2012年の認知症患者は462万人」と衝撃的な見出しが載りました。10年前の予測では約240万人でしたので、大幅な増加といえます。さらに驚くことに、軽度認知障害（MCI）も約400万人存在することが分かったのです。MCIは年間約15％程度が認知症に進行しますから、あと５年後には認知症患者は700万人に近づいているかもしれません。700万人といえば糖尿病患者に匹敵する数字です。介護など非常に手がかかる認知症患者がこんなに増えるとは、本当に大変な時代になりました。

そんな折、東京都で高齢化率第一位となった清瀬市でも、医師会と行政が一緒になって認知症委員会を発足させました。ほぼ同時に、北多摩北部五市（清瀬・東久留米・東村山・西東京・小平）の認知症医療介護連携協議会（議長は薫風会山田病院）もスタートしました。私は清瀬市の委員長と連携協議会の委員をお引き受けすることとなりました。

認知症は、今のところ根治することのできない疾患で、一つの医療機関で診断から介護までを対応することは困難です。ですから、医療・介護の地域連携が不可欠なのです。小さな地域連携と大きな地域連携、つまり、清瀬市内の連携と北多摩五市での連携を構築し運営していくことが、これらの会の設立目的ということになります。

今はまだ、どちらの会も委員が決まったばかりで、認知症診療の実態を分析しているところです。これから地域連携パスをつくり、医療機関などの役割分担を明確にし、市民への啓蒙活動を行い、などなど課題は山積みです。発足したばかりの会で私が最初に提案したことは「走りながら考えましょう」でした。毎年50万人ペースで認知症は増え続けるので、じっくり考えている余裕がないからです。

実をいうと、認知症対策には医療機関の枠を超えた地域のコミュニティーがとても重要です。認知症は、人と人とのつながりが切れてしまうことが、その本質なのです。幸い、清瀬にはまだコミュニティーが残っていて、十分に利用可能と考える医師会の先生方もおられます。そんな広い視野を持ちつつ、まずは目の前の診療を地道に行っていきたいと考えています。

委員会・協議会両方とも、実質的な活動は2014年からになりますが、このような状況ですので、皆さんのご理解とご協力が必要です。よろしくお願いいたします。

複十字病院による啓発活動

当院では市民の皆様や地域の医療関係の皆様に対しまして公開講座や研究会を開催しております。

【市民の皆様を対象とした講座】

清瀬市健康大学

日　　時：2013年9月20日（金）
場　　所：清瀬市アミューホール
演　　題：「COPDってどんな病気？」
演　　者：院長　**工藤　翔二**

呼吸器センター市民公開講座

日　　時：2013年10月26日（土）
場　　所：清瀬市アミューホール
演　　題：「今増えている肺非結核性抗酸菌症」
総合司会：臨床研究アドバイザー　**倉島　篤行**
演　　者：呼吸器内科医師　**森本　耕三**
診療主幹　**佐々木結花**
呼吸器センター長　**白石　裕治**

乳腺センター市民公開講座

日　　時：2013年11月10日（日）
場　　所：竹丘地域市民センター
演　　題：「乳がん―今を大切に」
演　　者：乳腺センター長　**武田　泰隆**
緩和ケア科長　**宮崎　聡**
聖ヶ丘病院　ホスピス長　**三枝　好幸**　先生

【地域の医療関係者向け講演会等】

第11回清瀬市三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）合同研修会

日　　時：2013年9月4日（水）
場　　所：清瀬市アミューホール
演　　題：「COPDという生活習慣病」
演　　者：呼吸ケアリハビリセンター長　**吉田　直之**

第6回きよせ吸入療法研究会学術気講演会

日　　時：2013年10月17日（木）
場　　所：清瀬市けやきホール
演　　題：1）「健康日本21（第2次）とCOPD」
演者：院長　**工藤　翔二**
2）「医療連携と吸入指導について」
演者：公立昭和病院　小児科医長
大場　邦弘　先生

＊吸入器実演

新 資格取得

がん薬物療法認定薬剤師

薬剤科　**堀口　靖子**

抗がん剤は、他の一般的な薬と違い、効果が出る薬の量と副作用が強く出る薬の量が非常に近い薬剤です。そのため副作用の発現頻度が高く、効果と副作用のバランスを見ながら治療を進めていくことになります。抗がん剤の投与量や投与間隔などの投与計画の管理、患者様への治療スケジュールや副作用・その対策についての説明、副作用への対処薬剤の検討、抗がん剤の安全な調製等、薬剤師として関わらなければならないことがたくさんあります。

だいぶ歳はとってしまいましたが、きちんと勉強し直し、幅広くまた最新の知識を学びたいと、今回がん薬物療法認定薬剤師にチャレンジしました。研修という貴重な機会を与えていただき、また、励まし、支えてくださったみなさまにこの場をお借りして心より感謝申しあげます。

抗がん剤治療を始める患者様の多くが、「これからどんなことが起こるのだろうか……」と不安な気持ちを抱えておられるのではないかと思います。制吐剤等の副作用対策の薬は日々進化し、なるべく副作用が起きないよう治療を行っています。副作用の発現には個人差がありゼロにすることができない場合も多いですが、なるべく副作用がつらくないよう、生活に支障がでないようにその方に合わせて十分に対処していきます。つらい症状がありましたら我慢せず、あきらめず、まずは医師、看護師、そしてぜひ、薬剤師にもご相談ください。抗がん剤治療が順調に進むよう、チーム一丸となってサポートさせていただきます。

感染制御認定薬剤師

薬剤科　**鈴木　裕章**

このたび、感染制御認定薬剤師を取得いたしました。

この資格は、感染制御を通じて患者様が安心・安全で適切な治療を受けるために必要な環境の提供に貢献するとともに、感染症に関わる薬物療法の適切かつ安全な遂行に寄与することを目的としています。

資格取得のきっかけはICT（感染対策チーム）に参加させていただいていて、チームの中で薬剤師としてどのように関わっていったらよいか学んでいくのに適していると思ったからです。

みなさんは抗菌薬がほかの薬と異なる点をご存知ですか？　それは院内環境に影響を与える薬ということです。どういうことかといいますと、薬は通常、投与された患者様にだけ作用します。しかし、抗菌薬は適切に使用しないと病原菌が薬に効かない耐性菌になり、その耐性菌が院内に広がると院内感染となってしまいます。そうならないように抗菌薬･消毒薬を適正に管理する必要があります。

一番の感染対策は感染症にかからない、うつさないことです。冬はインフルエンザが流行しますので、みなさんもうがい・手洗いをして予防に努めましょう。厚生労働省が普及啓発活動をしている「咳エチケット」も実践したいですね。

今後も患者様に安心して治療を受けていただけるように努力していきます。お薬の相談は当院正面玄関から入って右側の薬剤科までお立ち寄りください。

清瀬市民マラソンに出場して

呼吸器内科　**山名　一平**

夏の熱気がまだ残る体育の日、清瀬市民マラソンが開催され、私は4kmの部に参加させていただきました。アットホームな雰囲気に加え、救護班が複十字病院スタッフということもあり、いつも以上の力を得られた気分でした。けやき通りの景観を楽しむ余裕もなく全力疾走しましたが、結果は入賞にあと一人及びませんでした。力不足でしたが、来年は入賞めざしてがんばります。

つらいマラソンをなぜ好んでやるのかと、よく質問されます。一つは、目標に対しての努力が、タイムという結果で純粋に評価されるところですが、一番の理由は、レース後の打ち上げです。走る力はそれぞれですが、きつかった場所やゴールが近くなったときのうれしさなどは同じです。皆で同じ感情を共有できることは、そうそうありません。それを肴にして脱水の体にビールを入れるのが至福の時と思っております。（医療的にはお勧めできませんが。）

今回、一緒に参加された複十字病院の方々と楽しい時間を過ごすことができました。是非、来年は更なる参加者を加えて盛り上がれればと思います。

呼吸器外科　**中川　隆行**

小学生の頃、忘れ物をする度に校庭をグルグル走らされた思い出から、昨今のマラソンブームは狂気の沙汰とも感じていたのですが、ドラマの影響であのニューヨークのセントラルパークを１周（約10km）ランニングするセレブ生活を夢見ておりました。

７月に清瀬に移り住んでからというもの500mもない自宅と病院とを往復する食っちゃ寝生活でしたので、下田先生の楽しげな清瀬ローカル案内に、二つ返事で7kmにエントリーしたのは後の祭りでした。

密かに台風の来襲を期待していたのですが、大会当日は秋晴れのマラソン日和。本気モードの山名先生の走りで、気合だけは入ったのですが、いざ自分の7kmがスタートして会場の中学校を出た時には、背中がつってしまい早くもギブアップ寸前。ケヤキロードに出たところで着ぐるみを着た若者３人組を発見、彼らだけには負けまいとギヤを上げたのですが即オーバーヒート。ケヤキロードの折り返しの度にずるずると後退して、遂にはタヌキとウサギの背中が遠ざかって行くのでした。最後は、脳への酸素供給も途絶え、ゴールした記憶も怪しくなり、これがランナーズハイというものなのかと感じたものです。

これに懲りずに来年も参加して、いつかは自分もマラソンの醍醐味がわかるように、更にはハリウッド俳優とラン友になれたらいいなぁ。

2013自衛消防審査会　医療機関における防災対策

防災委員会　**瀧口　竜太**

皆様は、先日10/11福岡での有床整形外科火災で尊い患者様の命が10人奪われたのを覚えておられるでしょうか？

あの事件も未だに出火原因がはっきりしていないが、おそらく夜間に人手が少ない際に、初期消火・通報の遅れ、またそこに従事する病院関係者の消火設備認識の欠如・消防意識の薄さからくる事件といわれています。

我々医療従事者は、火災を未然に防ぎ、そしてもしも…もしも火災が発生した場合は、点滴や寝たきりの入院患者様を避難させる事に多大な人力と労力を費やす事よりまず先に培われた知識に基づき男女問わず「初期消火の時点で必ず鎮火させる」事が必要とされます。

そうです、その為に毎年この季節がこの審査会がやって来るのです！

今年も新たに３人のファイヤーマンと３人のファイヤーガールが誕生しました。

【女子隊】	1C病棟	**佐藤　由香**	2A病棟	**大橋　文江**
【混成隊】	検査科	**輪島　　愛**	医事課	**平間　幹人**
【男子隊】	中央監視室	**高須賀俊輝**	中央監視室	**鳥羽竜太郎**

例年通り、9/13の本大会に向けて７月の中旬から計10回、暑い夏の日に17時～19時まで研究所の駐車場にて各隊練習を行いました。

この今年で39回を迎える歴史ある審査会は、約５分近くの消火設備（消火器・屋内消火栓・自動火災報知設備）の取り扱い・119番連絡方法の演技とセリフがあり、（本当に長く覚えるのが大変…）約30チームが参加します。

今年も毎年のごとく最初は皆が「絶対無理！」と口走りましたが小林室長と星室員の熱血指導の下、審査会が終る頃には立派な隊員に育っており審査会当日は、炎天下で大勢の観衆が見守る中、こちらが目みはるぐらいの堂々と演技して、見事混成隊は「優勝」男子隊は「準優勝」女子隊は「敢闘賞」に輝きました。

本当に感動いたしました。

本年度は大会当日、院長・看護部長・事務部長を始め炎天下のなか同僚の方や多くの方（本年は結核研究所も参加したので結核研究所の方も）が激励や応援に参加していただきまして、本当にありがとうございました。また指導に携わっていただいた中央監視室の方や、過去大会に参加していただいた各職場の自衛消防隊OBの方々にもこの場をお借りして御礼申し上げます。

こうして毎年、各職場に消防のスペシャリストが誕生する事は、当院にとってとても心強いかぎりです。選出にご協力いただきました職場の方々、ありがとうございました。

複十字病院理念

私たち複十字病院の職員一同はこの理念を常に念頭において研鑽し、努力いたします。

1．私たちは患者さま中心の医療を行います。
2．私たちは皆様の健康を第一に考え、人格を尊重し、プライバシーを守ります。
3．私たちは開かれた、信頼感のある医療と温かい看護を提供します。
4．私たちは最新で最良の医療を提供します。
5．私たちは地域の医療、保健、福祉に積極的に参加します。

●複十字病院の基本方針●

1．一般急性期病棟と療養型病棟の複合型病院として、高齢化する地域社会に貢献するとともに関東ブロックの結核拠点病院として結核予防会の使命を果たす。
2．複十字病院登録医会を中心として、病診、病病連携を推進し地域医療に貢献する。
3．職員教育を充実させ、患者さまへのサービスと医療の質的向上を図る。
4．在宅医療、救急医療の充実を図るとともに、検診事業の内容を発展させ新しいがん検診システムを構築する。
5．院内、院外の情報システムを充実し、地域社会に積極的に参加する。
6．職員の原価意識を高め、健全な病院経営を行う。
7．患者さまは年齢、性別、地位に関係なく充分な説明に基づいた治療を受け、第三者の意見を聞き、診療情報の開示を求める権利を有する。
8．危機管理を充実し、医療事故防止に努める。

人　事　異　動

2013年9月15日～12月14日まで

【採　　用】
（看　護　師）栗　原　康　子　　10/1

【退　　職】
（看　護　師）風　間　由美子　　9/21
（看　護　師）酒　井　紀　子　　9/30
（看　護　師）新　井　やよえ　　9/30
（看　護　師）八木橋　恵　美　　10/14
（看　護　師）大　橋　文　江　　11/14

行　事　予　定

1．年末年始休診
日　時▶2013年12月29日（日）～2014年1月3日（金）
＊12月28日（土）と1月4日（土）は通常の土曜日診療となります

2．院長年頭挨拶
日　時▶2014年1月6日（月）12：00
場　所▶複十字病院　講堂

3．秋桜の会・第18回おしゃべり会
日　時▶2014年1月25日（土）13：00
場　所▶複十字病院　講堂

呼吸器センター市民公開講座開催

2013年10月26日（土）午後1時より清瀬市生涯学習センター7階　アミューホールにて、『呼吸器センター市民公開講座「今増えている肺非結核性抗酸菌症」』が大正富山医薬品株式会社共催、清瀬市医師会後援で開催されました。
当日は台風直撃が心配される中、約180名の方がご参集くださり、会場が満席になる盛況ぶりでした。
演者及び演題は下記のとおりです。

開会挨拶：複十字病院　副院長　尾形　英雄
総合司会：複十字病院　臨床研究アドバイザー　倉島　篤行
講　演
1．「肺非結核性抗酸菌症は本当に増えているのか」
複十字病院呼吸器センター
呼吸器内科　森本　耕三
2．「肺MAC症の治療と副作用」
複十字病院診療主幹　佐々木　結花
3．「どういうときに手術をするのか」
複十字病院　呼吸器センター長　白石　裕治
パネルディスカッション
閉会挨拶：複十字病院　呼吸器センター長　白石　裕治

乳腺センター市民公開講座開催

2013年11月10日（日）午後2時より清瀬市竹丘地域市民センターにて『乳がん市民公開講座「明日の私のために」』が清瀬市医師会、QOL総合研究所後援で開催されました。
当日は約60名の方がご参集くださり、盛会に終了いたしました。
また、参加者の方々より「三枝先生によるオカリナ演奏が心にしみた」と好評でした。
演者及び演題は下記のとおりです。

テーマ：「乳がん―今を大切に」
講　演
1．「乳がん～最新のトピックス～」
複十字病院　乳腺センター長　武田　泰隆
2．「複十字病院における緩和チームのかかわり」
複十字病院　緩和ケア科長　宮崎　聡
3．「ホスピスについて～今を生きることをあきらめない～」
珠光会聖ヶ丘病院　ホスピス長　三枝　好幸　先生

編集後記

新しい年が始まり、身が引き締まる思いです。この一年はとにかく、けがをせず、病気せず、何事にも「はい、喜んで!!」をモットーに日々前進していきたいです。
人生に様々な涙あり。中でも決意の涙が一番いいなあ。　（マーシー）

表紙の写真

夏の想いで
毎年夏休みは信州に行くのですが、必ず途中の群馬県立近代美術館で一休みします。
この写真はそのおりで撮ったもの。何も知らなくても思わず写真を撮りたくなる造形空間ですね。調べてみるとこれはロスアンゼルス現代美術館などを作った建築家磯崎新によるもので代表作の一つだそうです。ウーン、知らなかった。あの夏の強烈な暑さがよみがえります。　（倉島）